

## 事業報告書

|     |   |
|-----|---|
| 事業名 | 和具浦ワカメ漁のプロモーションとボランティア受け入れの<br>持続可能な体制づくり |
|-----|---|

### 1 事業の実施概要

|      |  |
|------|--|
| 実施内容 | 鳥羽市の課題解決のために、以下の事業を実施しました。   |
|      | <p>本事業では、和具浦のワカメ漁が直面する二つの課題「ワカメの価値発信不足」と「ボランティア運営の持続性欠如」を解決するため、以下の二つの事業を柱として実施しました。</p> <p>① 和具浦ワカメ漁のプロモーション事業</p> <p>和具浦ワカメのブランド価値を向上させ、新たな顧客層を獲得するため、オンラインでの情報発信を強化しました。具体的には以下の活動を行いました。</p> <p>ウェブサイト制作と情報発信：和具浦ワカメの希少性や漁法、そして漁師たちのこだわりを伝えるウェブサイトを制作しました。サイト内では、写真や動画を多用し、ワカメの収穫から加工までのストーリーを視覚的に訴求しました。</p> <p>② ボランティア（結づくり事業）受け入れの持続可能な体制づくり</p> <p>特定の運営者への負担を軽減し、ボランティア事業を自立的に運営できる仕組みを構築しました。これにより、島の生業であるワカメ漁を安定的に支えます。具体的には以下の活動を行いました。</p> |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>運営マニュアルの作成と動画化：ボランティアの募集から当日の流れ、活動内容、注意事項までを分かりやすく解説したマニュアルを作成し、同時に動画を制作しました。参加者は事前にこのマニュアルや動画を確認することで、運営者が不在でもスムーズに活動を開始でき、運営側の負担を大幅に軽減します。この動画作成などは島で活動する横浜国立大学の島プロジェクトin鳥羽と連携をとりながら進め、持続的な運営体制を構築しました。</p> <p>オンライン管理システムの導入：ボランティアの申し込み管理、参加者へのリマインダーメール送信などをシステム化し、煩雑な業務を削減し、運営を効率化しました。</p> <p>ノウハウの共有と協力体制の構築：運営マニュアルを地域住民や協力者に共有し、誰でもボランティアの受け入れができる体制を構築しました。これにより、運営業務が一人に集中することを防ぎ、将来にわたって事業を継続できる基盤を立ち上げました。</p> |
| 事業期間 | 2025年9月20日～2026年3月31日   |

## 2 事業実施の成果

|        |   |
|--------|---|
| 鳥羽市の課題 | <p>事業により、</p> <p>和具浦のワカメ漁という貴重な地域資源がありながら、その希少性や背景にあるストーリーが十分に外部へ届いておらず、同時に、漁を支えるボランティア運営が特定の個人や限定的なマンパワーに過度に依存しているため、将来的な事業継続が危ぶ</p> |
|--------|---|

|             |   |
|-------------|---|
|             | まれている   |
|             | という状況が判明し、鳥羽市の課題が明確になりました。  |
| 課題解決の提<br>言 | 課題解決のためには、以下のような取組が必要とされます。   |
|             | デジタル技術を活用した戦略的な情報発信によってワカメの付加価値を高めるとともに、運営マニュアルの動画化やオンライン管理システムの導入により、専門的な知識がなくても地域全体でボランティアを受け入れられる仕組みの標準化と運営負担の分散を図る取組が必要とされます。 |